

THE ROTARY CLUB OF KOSHIGAYA-NORTH

第 2770 地区 第 8 グループ 越谷北ロータリークラブ

2024-25 年度国際ロータリーテーマ 「ロータリーのマジック」 RI 会長 ステファニー A. アーチック

ロータリーのマジック 2024-25 年度越谷北 RC 会長提言 「伝統を愛し、変化を楽しむ」 越谷北 RC 会長 江口 公晴

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| ● 例会日 毎週水曜日 12:30~13:30 | ● 会 長 江 口 公 晴 |
| ● 例会場 越谷市千間台東インペリアルビル 4 階 | ● 副 会 長 大 島 直 幸 |
| TEL 048 (975) 9898 | ● 幹 事 伊 藤 純 |
| FAX 048 (977) 3741 | ● 会報委員長 中 澤 伸 浩 |
| ● 創 立 1976 年 5 月 11 日 | |

第 2371 回 例会記録 No. 32

令和 7 年 4 月 16 日

司会: 川島 徹 編集: 近藤 慎悟

会次第

1. 点鐘
2. ロータリーソング 「手に手つないで」
3. ロータリーの目的
4. ロータリアンの行動規範
5. お客様紹介
株式会社アテナソリューション
代表取締役 立石 裕明 様
米山記念奨学生 謝 藝 様
6. 会長挨拶
7. 幹事報告
8. お客様挨拶
9. 雑誌記事紹介
10. 委員会報告
11. 外部卓話
「中小企業・小規模事業者政策と今後の傾向について」
12. 出席報告

【次回例会案内】

令和 7 年 5 月 7 日

結婚記念・誕生祝い

四つのテスト

外部卓話 「職業奉仕部門」について

卓話者: 地区職業奉仕部門委員長 新井 清太 様

会長挨拶



江口 公晴 会長

皆様こんにちは。

本日は会長卓話の時間を使いまして、会員の皆様で話し合いたい事項がございます。議題は会費の改定です。

まず、背景をお話ししますと 2 月 19 日に行われました被選理事役員会において、会費とスマイルの件について協議事項として協議されました。

続いて 3 月 5 日の理事役員会においても協議事項として上程され、今後の会費とスマイルのあり方について話し合われました。

その後、3 月 19 日の被選理事役員会において現状の年会費 27 万円、会費徴収時スマイル 3 万円から、年会費を 30 万円、会費徴収時スマイルはなしとする案がまとめられ次の理事役員会にて審議することが承認されました。

それを受けて 4 月 9 日の理事会にて審議され、被選理事役員会からの提案である年会費を 30 万円、会費徴



収時スマイルなし、という案が承認されました。

そこで、本日この場を設けさせていただきました。

クラブの会費は、年度計画書 87 ページ、細則第 6 条第 2 節で年額 27 万円と定められておりますので、その改定には細則の改正が必要です。

また、年度計画書 90 ページ、細則第 16 条によると細則の改正には 3 分の 2 以上の支持が義務づけられております。

私は細則の改正手続に着手するのに先立ち、会員の皆様へ今回の目的をしっかりと共有する必要があると考えております。そこで、本日はこの趣旨を関会長エレクトよりご説明いただくとともに皆様からのご意見を賜りたいと思います。

皆様、誠にありがとうございました。

それでは、本日もよろしくお願ひいたします。



関 雄二郎 会長エレクト

次年度被選理事役員会にて承認のもと、現年度の理事役員会にて承認頂きました。

年会費の増額の件ですが、将来に向けてクラブ財政基盤を強化しなければ、余裕をもつての奉仕活動が厳しい状況が続くと思われます。

現在のクラブ年会費 270,000 円、スマイル分集金 30,000 円、合計 300,000 円を納めていただいておりますが、

- ① 次年度以降スマイル分は集金せず、年会費 300,000 円とする
- ② スマイル BOX の意義をクラブで周知し、本来の社会奉仕事業費として特別会計に積み立てる

クラブ細則の変更の手続きを経て正式に始動しますが、会員一人一人がクラブの現状を共有し、スマイルの意義の理解を深めていきましょう。

幹事報告



伊藤 純 幹事

(地区より)

- ・南クラブより、訃報が届いております。吉田豊治パストガバナーが 4 月 13 日ご逝去されました。葬儀につきまして、会場は越谷市斎場にて 4 月 23 日(水) 17 時 30 分～通夜式、24 日(木) 9 時半～告別式となります。各自でのご対応よろしくお願ひいたします。

(クラブより)

- ・2770 地区から、2025 年ミャンマー大規模地震緊急支援のお願いがあり、先週開催されました第 10 回理事役員会において審議しました結果、地区のお願い通り会員一人当たり 1,000 円 49 名分 49,000 円を災害義援金とすることとして承認されました。会員の皆様のご協力ありがとうございました。
- ・第 10 回理事役員会において三上圭介さんを入会候補者として全会一致で承認となりました。三上さんの入会申込書、履歴書を本日より 1 週間掲示しておりますので全会員様にご覧頂き、ご異議、ご質問などございましたら幹事伊藤まで申しつけください。
- ・本日 50 周年準備委員会が開催され 50 周年式典の開催日、会場が決まりました。日程は 2026 年 4 月 18 日土曜日、会場は東武レバント東京となります。全会員、ご予定よろしくお願ひいたします。最後に、先ほど来、



ご報告申し上げました第10回理事役員会、議事録を
掲示しておりますので会員の皆様ご確認ください。

雑誌記事紹介



吉田 実 会員

皆さん、こんにちは。本日は「GROW ROTARY」についてお話しさせていただきます。

近年、ロータリークラブでは、「Belonging(帰属意識)」「3 Year Rolling Goals」「Action Plan」「Club Experience」などのキーワードが重視されるようになっていきます。これは、ただ古き良き伝統を守るだけではなく、時代の変化に柔軟に対応し、未来に向けた成長を実現するための取り組みです。

特に大切なのは「Belonging」、すなわち居心地の良い空間づくりです。若い世代や女性、さらに多様な背景を持つ人々がクラブに参加しやすくなるためには、共感や一体感を感じられる環境が必要です。そのためには、クラブ体験そのものを充実させる必要があります。

また、DEI-多様性・公平性・包括性の観点からも、性別や年齢、国籍に関わらず、すべての人が活躍できるクラブ運営が求められています。世界のリーディングカンパニーでも、Appleをはじめ多くの企業がこの考え方を実践しています。

私たちロータリアンも、単年度の活動にとどまらず、3年後を見据えた「Rolling Goals」と、それを実行する「Action Plan」をもって、真の「GROW ROTARY」を実現していきましょう。

(※参考元:ガバナー月信 vol.9、ChatGPT 要約機能より)

委員会報告

プログラム委員会 須賀 篤史 委員長

来週の越谷中クラブとの合同例会の時間変更があります

表彰



(ポリオプラス・ソサエティ)

近藤 慎悟 会員

お客様挨拶



米山記念奨学生 謝 藝 様

皆さん、こんにちは。謝藝(シャ・ゲイ)と申します。謝は感謝の謝、藝は芸術の藝です。中国の重慶出身で、現在は文教大学学校教育研究科の修士二年生です。

中国の大学時代でボランティア活動の研究を通じて日本の特別支援教育に興味を持ちました。このため、日本への留学を決意しました。今は大学院で発達障害のある子どもたちのコミュニケーション能力の向上に関する研究を行っています。

普段の趣味は音楽を聴くこと、撮影・動画編集と言語の勉強や文化交流もすごく好きです。今は日本語と韓国語と英語を勉強しています。

これからどうぞよろしくお願いいたします。



外部卓話

すのでご案内致します。

18時からを予定していましたが、30分遅らせまして18時半から開始となります。従って、南越谷駅北口には18時にバスが参りますので、そちらでバスに乗って頂いて現地に来て頂けたらと思います。

また、一部の方をお願いして、バスの定員を超過してしまっていますので、大島会員にキャラバンを出して頂きます。バスの後ろにつけてもらいますので、乗れない場合はそちらに乗って頂ければと思います。

何名かの方が橋本屋さんと間違えている方がいらっしゃいます。福寿家さんですので間違わないようお願い致します。

会計 黒田 幸英 副会計

2024-2025 年度第3 四半期の報告となります。主な数字のみ読み上げます。

(収入の部)

前期繰越金	787,365 円
会費収入	12,645,000 円
入会金	360,000 円
スマイル計	2,260,500 円
その他	288,426 円
収入合計	16,341,291 円

(支出の部)

分担金	2,065,943 円
一般費	7,104,891 円
委員会活動費	3,106,377 円
地区補助金事業	154,060 円
支出合計	12,431,271 円

(収支)

収入 — 支出 3,910,020 円

掲示板にも掲示しますのでそちらをご確認ください。



株式会社アテーナソリューション

代表取締役 立石 裕明 様

「中小企業・小規模事業者政策と今後の傾向について」

■経歴

立石裕明氏は、兵庫県・淡路島にて家業の旅館業を継承し、宿泊業に従事してこられました。しかし、1995年の阪神淡路大震災により、事業は甚大な被害を受けます。この経験が、後に中小企業・小規模事業者支援の道を志すきっかけとなり、経営者としての苦悩とともに、公的支援制度の重要性を身をもって体感されました。

その後、経営計画の重要性に気づき、国の認定を受けた経営計画を策定。これが、事業再建の「起死回生」の転機となりました。

現在は、中小企業・小規模事業者の経営改善や資金調達、創業支援などに幅広く取り組む専門家として、現場に密着した支援を行っています。

■中小企業・小規模事業者支援に踏み出した契機

震災を経て、自らの生活や事業の再建に奔走する中で、「困っている中小企業・小規模事業者にこそ、もっと早く支援の手が差し伸べられるべきだった」という思いが芽生えました。そうした思いが原動力となり、中小企業・小規模事業者支援の道へと歩み出す決意を固めました。

特に、自らが経営計画を策定し、国の認定を受けて事業の立て直しに成功した経験は、現在の支援活動における大きな指針となっています。立石氏は、「制度を知り、活かすこと。そして実行可能な計画を持つこと」が、



中小企業・小規模事業者にとって何より重要だと語りません。

■経営計画と連帯保証の苦しさ

事業再建の過程で、立石氏が痛感したのは「経営計画の必要性」と「連帯保証が経営者に与える重圧」でした。「多くの経営者が、連帯保証の責任を背負いながら経営を続けています。それが企業の成長や再建の足かせとなっているケースも少なくありません」と話し、企業のリスクをいかに軽減するかについて深く考えるようになったといます。

さらに、「金融機関との良好な関係性を築くことは、経営者が安心して経営に集中できる環境づくりにもつながります」と述べられました。

■中小企業・小規模事業者に対する支援策

立石氏は、「伴走支援」の重要性を強調します。支援者は、経営者にとって“何でも話せる存在”であるべきで、単なるアドバイザーにとどまらず、実行に至るまで寄り添う姿勢が求められるといます。

また、制度を活用する前提として「経営の基盤づくり」が不可欠であり、特に経営計画の策定はその要です。数値の整合性や実現可能性を備えた計画こそが、金融機関や支援機関からの信頼を得るうえで非常に重要です。

さらに、「支援制度は、知っていても使わなければ意味がありません。当たり前のことを着実に実行し、正しく制度を活用することが、困難な状況を打破する鍵になるのです」と力強く語られました。

■これからの金融機関との付き合い方

昨今、金融機関は“貸して終わり”から“共に考える”関係へと変化しています。立石氏は、「経営者が自らの考えや計画を明確に伝えることが、信頼関係の構築につながります」と話します。

また、金融機関も経営の現状を正しく把握するため

に、対話と情報開示を求めています。「毎月、棚卸を反映させた試算表を持参し、現状をしっかりと伝えること。それが金融機関との関係づくりの第一歩です」と、具体的なアドバイスもいただきました。

■労働者保護の在り方の見直し

労働環境の整備についても言及されました。

「現在の労働者保護制度は、過度に労働者側に偏ることで、かえって企業経営や雇用の柔軟性を阻害している側面もあります」と指摘されます。

中小企業・小規模事業者においては、一人ひとりの生産性やモチベーションが経営に直結します。だからこそ、企業と労働者の双方にとってバランスの取れた制度設計が求められていると述べられました。

■経営者へのメッセージ

「日本は、世界一の中小企業・小規模事業者支援国家です」。

立石氏は、制度や支援の仕組みが整備されている今こそ、経営者が“行動する”ことが何より大切だと呼びかけます。「まずは、商工会、商工会議所、よろず支援拠点等の降雨の支援期間に相談してみてください。支援者はあなたの味方です。どんな悩みでも、一人で抱え込まず、声を上げてくれたら、何とか道を拓く手助けができます」と、温かく力強いメッセージを寄せてくださいました。



立石様、ありがとうございました。



スマイル報告

・(株)アテーナソリューション代表取締役立石裕明様、本日卓話楽しみにしております。

江口 公晴

・本日も宜しくお願い致します。

伊藤 純

・(株)アテーナソリューション立石様、本日の卓話宜しくお願い致します。謝藝さん、これからよろしく。

大熊 正行

・立石様、今日卓話楽しみです。米山、謝さんよろしく。

青木 清

・お客様ようこそ。立石様、本日卓話よろしくお願い致します。

市川 洋和

・立石様、本日卓話よろしくお願いいたします。

小野寺 瑛子

・立石様、卓話宜しくお願い致します。米山奨学生の謝さん、一年間宜しくお願いします。

黒田 幸英

・アテーナソリューション立石様ようこそ。本日の卓話よろしくお願い致します。

須賀 篤史

・立石様、本日卓話宜しくお願い致します。

関森 初義

・お客様ようこそ。

大島 直幸

・お客様ようこそ。

関 雄二郎

・米山奨学生、イーさん。一年間ロータリーライフを楽しみましょう。

大濱 裕広

・謝さんようこそ!!

太田 靖彦

・米山奨学生イーちゃんようこそ!!

小林 光則

・謝さん、これからよろしくお願ひします。

中澤 伸浩

・本日も宜しくお願い致します。

佐藤 要

・本日宜しくお願ひします。

松井 昭夫

出席報告

会員数	49名
出席者	41名
出席率	89.1%



本日から 2025-2026 年度米山記念奨学生の謝藝様がクラブに参加します。カウンセラーの大濱会員が、経緯や謝藝様のニックネームを説明しました。



4月20日(日)米山記念奨学部門の入学式がありました。1年間よろしくお願い致します。

